

この度は、オーダーシステムのサービスをご利用いただき有難うございます。ここでは、システムのセッティングの仕方について説明します。数項目に分けていますので、見たい項目のリンクをクリックして下さい。

目次

MetaTrader5 のセットアップ.....	2
--	-------------------

MetaTrader5 の使い方.....	3
---------------------------------------	-------------------

システムの導入.....	8
------------------------------	-------------------

自動売買の仕方.....	10
------------------------------	--------------------

バックテストの仕方.....	12
--------------------------------	--------------------

システムのプログラムの変更.....	16
------------------------------------	--------------------

システムが正常に動かない場合.....	17
-------------------------------------	--------------------

◇ 著作権について ◇

本マニュアルの著作権は全てオーダーシステム代表 小松一に帰属します。

著作権者の事前許可を得ず、本書の一部または全てを、あらゆるメディア(印刷物、ビデオ、テープレコーダー、電子メディア、インターネット等)に複製及び転載することを禁じます。

MetaTrader5 のセットアップ

MetaTrader5 のセットアップです。すでに MetaTrader5 を使っている人は、この項目は飛ばしていただいても問題ありません。まず、各証券会社にある MetaTrader5 をダウンロードして下さい。

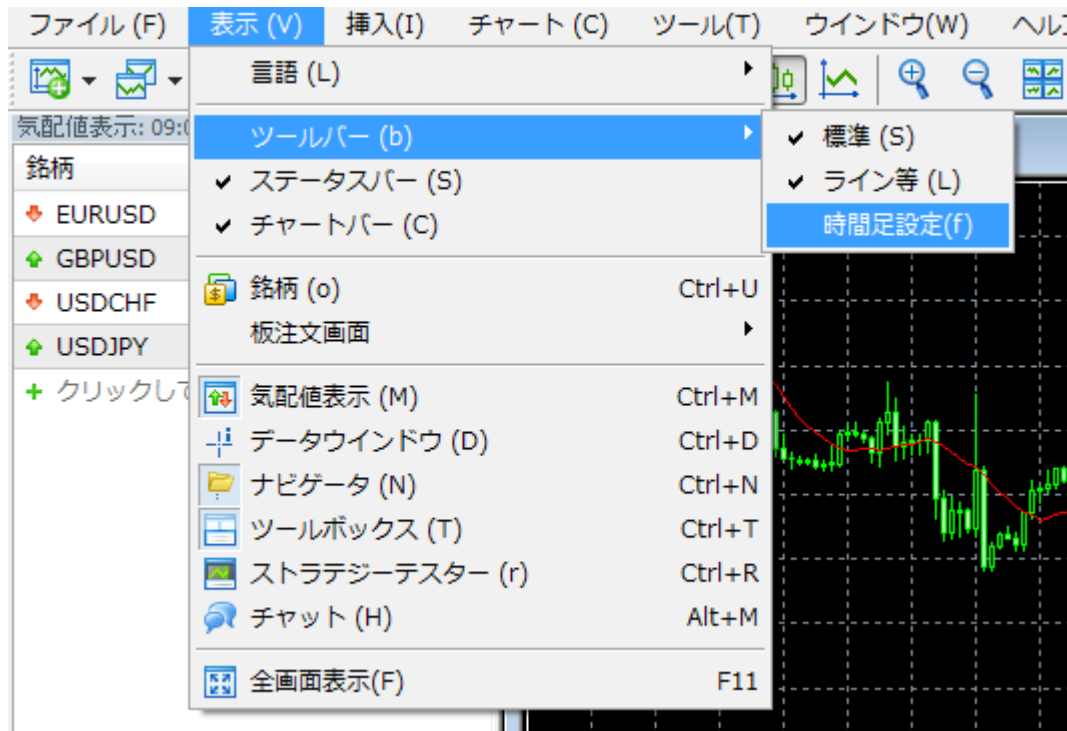
基本的な流れとしては、証券会社のホームページよりデモ口座、またはリアル口座の口座開設を行ったのち、MetaTrader5 のインストーラーをダウンロードするページに誘導されます。

ただ、証券会社毎に設定内容などが異なる場合も御座いますので、ご利用になられる証券会社の案内にしたがってインストールして下さい。

MetaTrader5 の使い方

MetaTrader5 の使い方です。すでに MetaTrader5 を使っている人は、この項目は飛ばしていただいても問題ありません。

まず、MetaTrader5 を起動させて下さい。最初は時間足の設定です。まず左上にあるタブから表示 → ツールバー → 時間足設定を選択します。



M1、M5、M15……と書いてあるボタンが出てきます。これを左クリックするとチャートの時間足が変わります。これはMが分足、Hが時間足、Dが日足、Wが週足、MNが月足です。例えば、M15なら15分足になります。

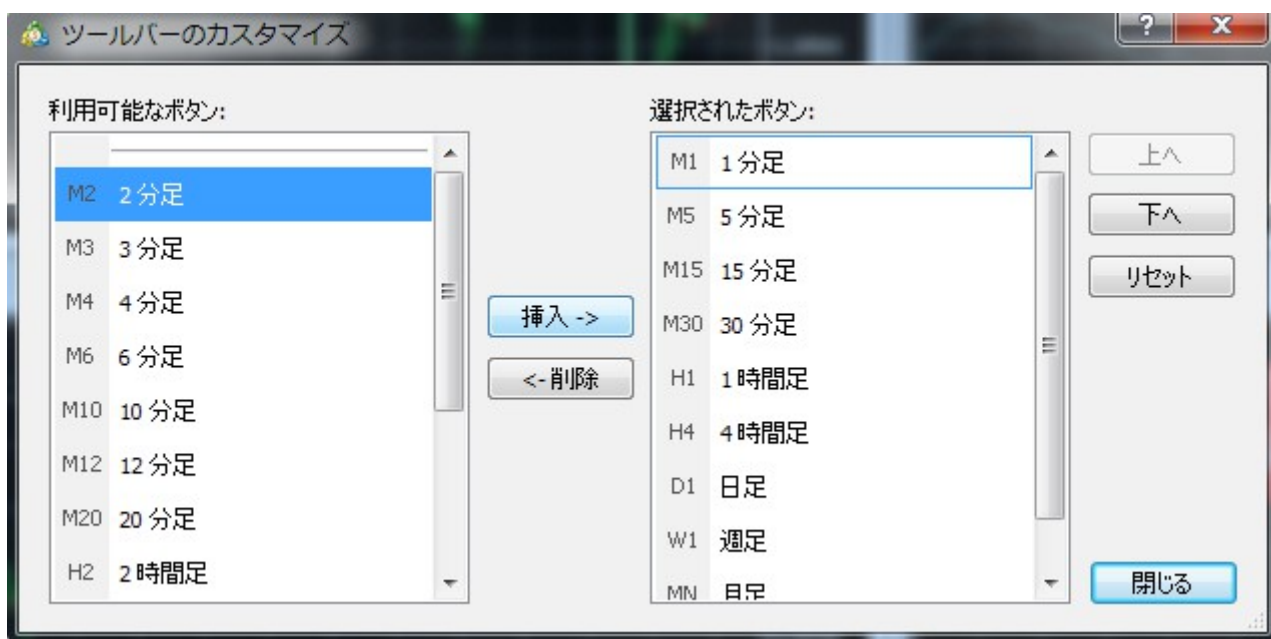


他にも2分足、10分足など他の時間足も増やすことが出来ます。

上記のアイコンの上で右クリックを押し、カスタマイズを選択します。

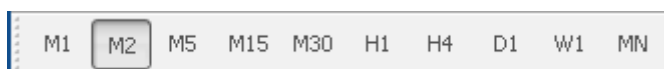


時間足の追加の画面が出ます。



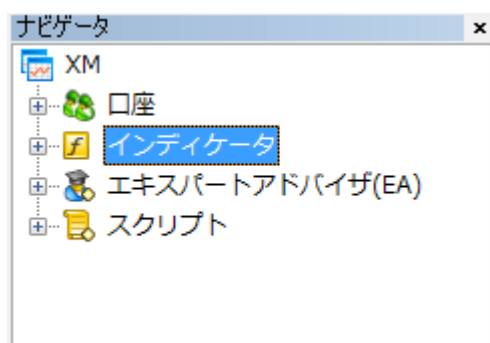
2分足を追加する場合、2分足を左クリックし、真ん中の挿入ボタンを押せば追加されます。並び順を変更したい場合は、変更したい時間足を左クリックしてから右にある上へ、下へのボタンで調整してください。

変更が終われば閉じるを押してください。



追加した時間足が表示されますので、それを選択して頂ければ追加した時間足を使用出来ます。

次はインジケーターの表示方法です。MetaTrader5 の中央の左の方にあるナビゲーターのインジケーターの中から好きな物を選んでチャートにドラッグすれば使えます。



現在取得しているポジション、または口座履歴を表示する場合は MetaTrader5 の下にあるツールボックスの取引タブに表示されます。もし消してしまった場合はメニューの表示からツールボックスを選んで頂くとまた表示されます。取引タブには現在取得しているポジション、口座履歴にはこれまで売買してきたポジションが記録されています。

銘柄	チケット	時間	タイプ
eurusd	208229349	2018.05.10 09:46:03	buy
残高: 5 046 600 JPY 有効証拠金: 5 043 085 必要証拠金: 14 692 余剰証拠金: 5 028 393 証拠金維持率: 34			
取引 運用比率 口座履歴 ニュース 受信トレイ 6 会社 マーケット アラート シグナル ライブラ			

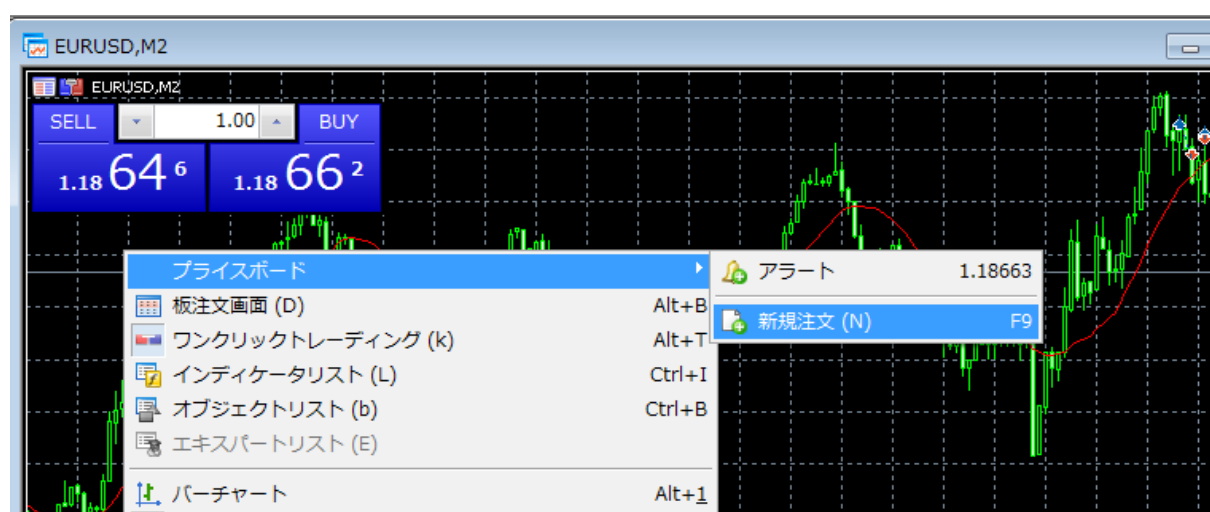
次は手動売買の仕方です。手動売買は自動売買をする場合は特に必要はありませんので、手動売買を必要としない場合はこの項目は飛ばしてください。

一番簡単な注文方法はワンクリックトレードを使用することです。



チャートの左上にある上記アイコンです。真ん中のタブでロット数を設定し、左側の **SELL** を押せば売りを、右側の **BUY** を押せば買いのオーダーを出せます。初期の場合は、ワンクリックトレードを使用する際の免責事項が出てきますので、読んで頂いて問題なければ規約と条件同意するにチェックを入れて **OK** を押してください。再度アイコンをクリックして頂ければエントリーオーダーを出せます。もしワンクリックトレードを消してしまった場合はチャートで右クリック → ワンクリックトレーディングを選んで頂ければまた表示されます。

またもっと細かなオーダーを出したい場合は、チャートで右クリック → プライスボード → 新規注文でオーダーのウィンドウで指定出来ます。



上記の画像のような新しいウィンドウが出てきたと思います。カウントダウン注文(成行き注文)の場合は、そのまま普通に入力して行き、真ん中の「**成行き売り**」、もしくは「**成行き買い**」を選べば売買注文が出来ます。少し注意が必要なのが数量で、1.00 で 10 万通貨です。1 万通貨にしたい場合は 0.10 を選んでください。(証券会社によっては異なる場合があります)

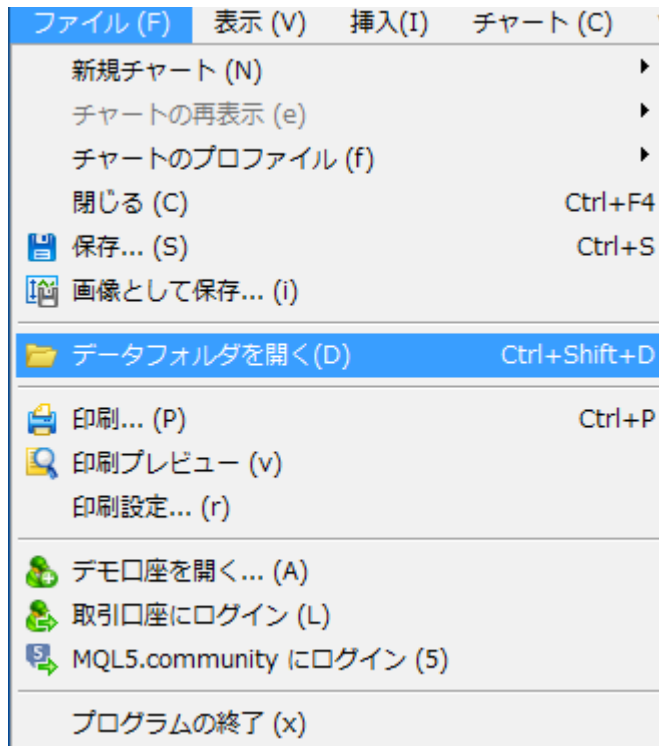
指値か逆指値の注文をしたい場合は、真ん中辺りにあるタイプ：と書かれた所を「**カウントダウン注文**」から「**指値注文**」に変えてください。必要なものを入力して行き、最後に注文を押せば注文が通ります。

次に決済注文の仕方です。ツールボックスの取引タブで現在取得中のポジションが表示されています。そのポジションを選び右クリックを押して、中にある決済を選択して頂ければポジションを決済出来ます。

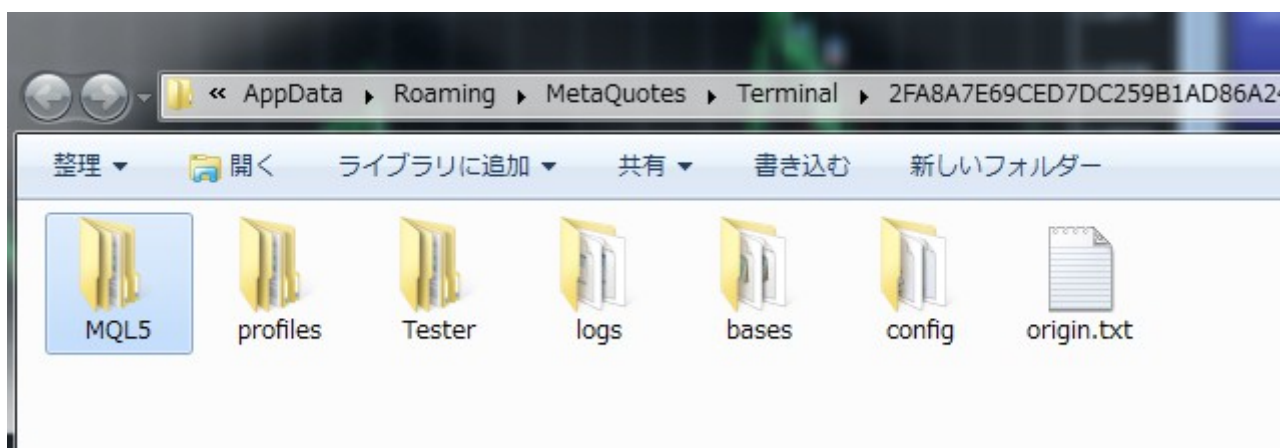


システムの導入

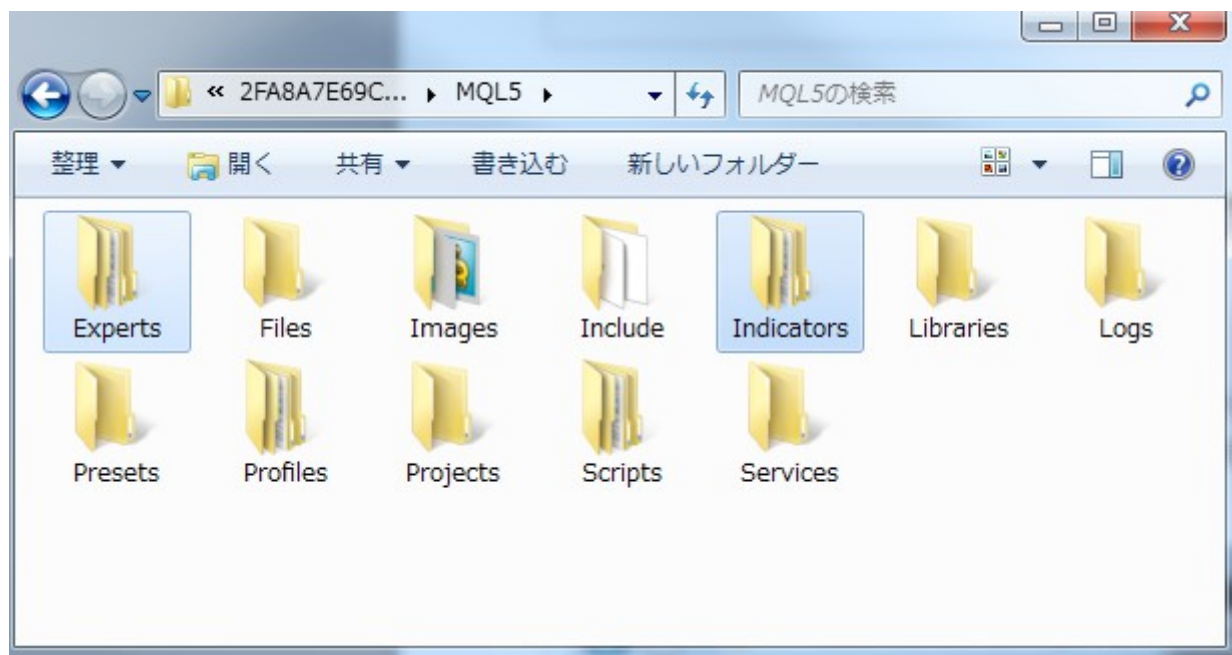
システムの導入方法です。まず、システムを導入する MT5 を立ち上げて下さい。次に MT5 のメニューバーの「ファイル」から「データフォルダを開く」を選択します。



MT5 の参照するフォルダが立ち上がります。このフォルダの中の MQL5 フォルダを開いてください。



そのフォルダの中に **Experts** フォルダがありますので、その中にシステムを入れてください。インジケーターの場合は **Indicators** フォルダに入れてください。



システムとインジケーターともに、拡張子が **mq5** と書かれたものと、**ex5** と書かれたものの二つがありますが、二つともフォルダに入れてください。

mq5 はソースファイル、**ex5** は実行ファイルとなります。システムを動かす分には **ex5** ファイルのみあれば問題ありません。**mq5** のファイルはプログラムの中身を変更するときに使います。

※注意！

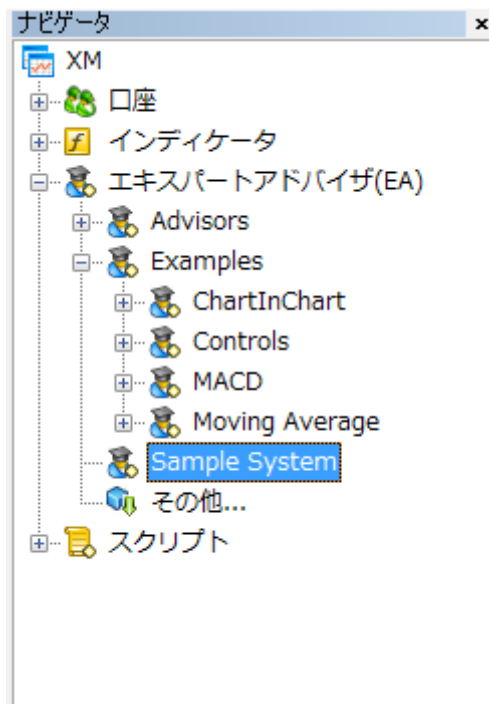
システムは「**システム**」という名称のフォルダに入れて納品させて頂いております。

「**システム**」という名称のフォルダをそのまま「**Experts**」フォルダに入れるのではなく、

「**システム**」フォルダの中身を「**Experts**」フォルダに入れてください。

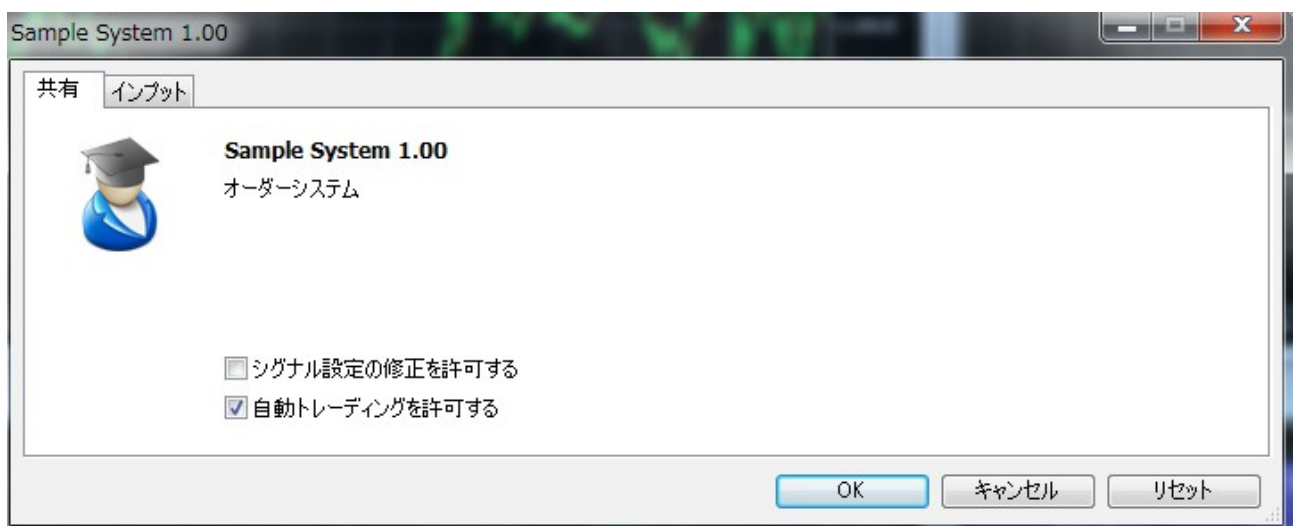
自動売買の仕方

自動売買の仕方です。まず、MetaTrader5 を起動させて下さい。

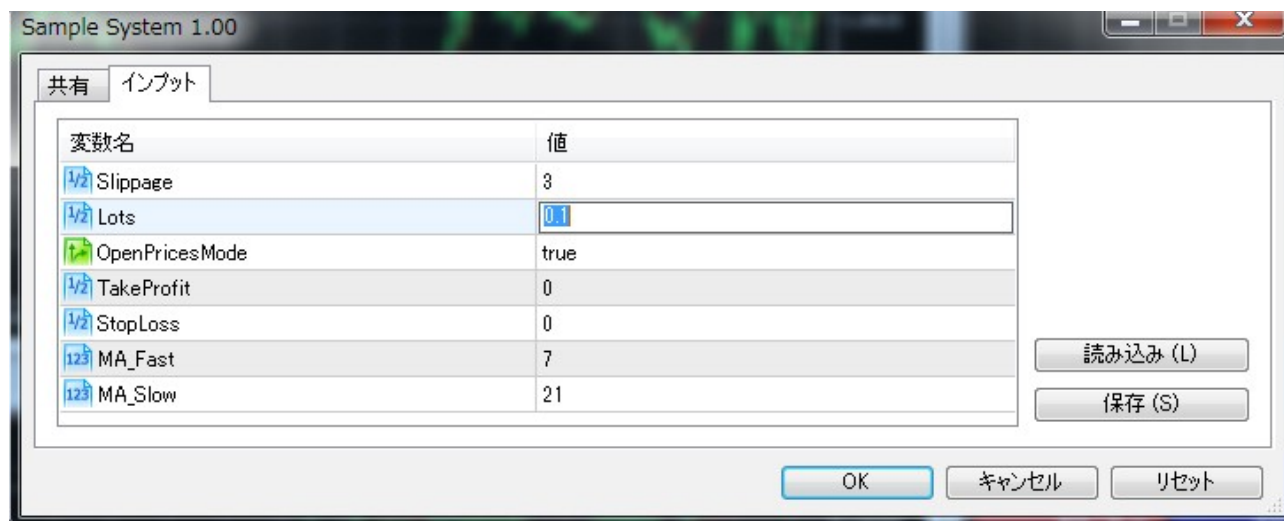


左下の方にあるナビゲーターから、**エキスパートアドバイザー(EA)**を開き、注文されたシステムを選びチャートにドラッグします。

まず共有タブの自動トレーディングを許可するにチェックが入っているか確認して下さい。パラメーターを変更したい場合は、タブのインプットをクリックして下さい。



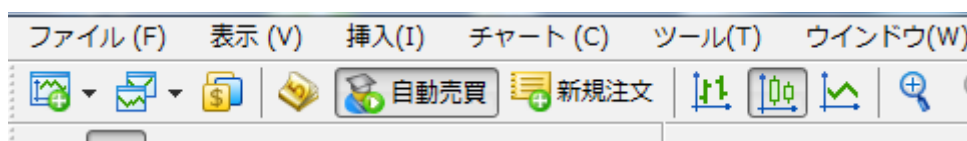
変更したいパラメーターの**値**を変更して下さい。保存する必要はありません。
読み込みと保存は、同じパラメーターを何度も設定したい場合などに使用します。



パラメーターについては、システムと一緒に添付してある「**システムのルール**」に詳しいことが書いてありますので、そちらを御覧下さい。最後にOKを押してウィンドウを閉じ、チャートの右上の方に**再生マーク**が出てきたら完了です。



再生マークではなく停止マークになっている場合、MT5 の上部にある**自動売買**が停止マークになっているはずですので、自動売買をクリックして再生マークにしてください。

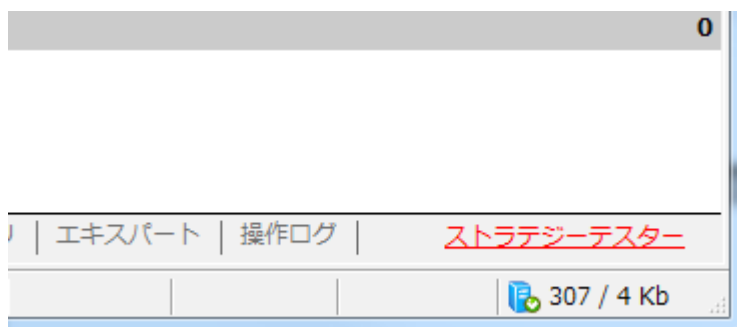
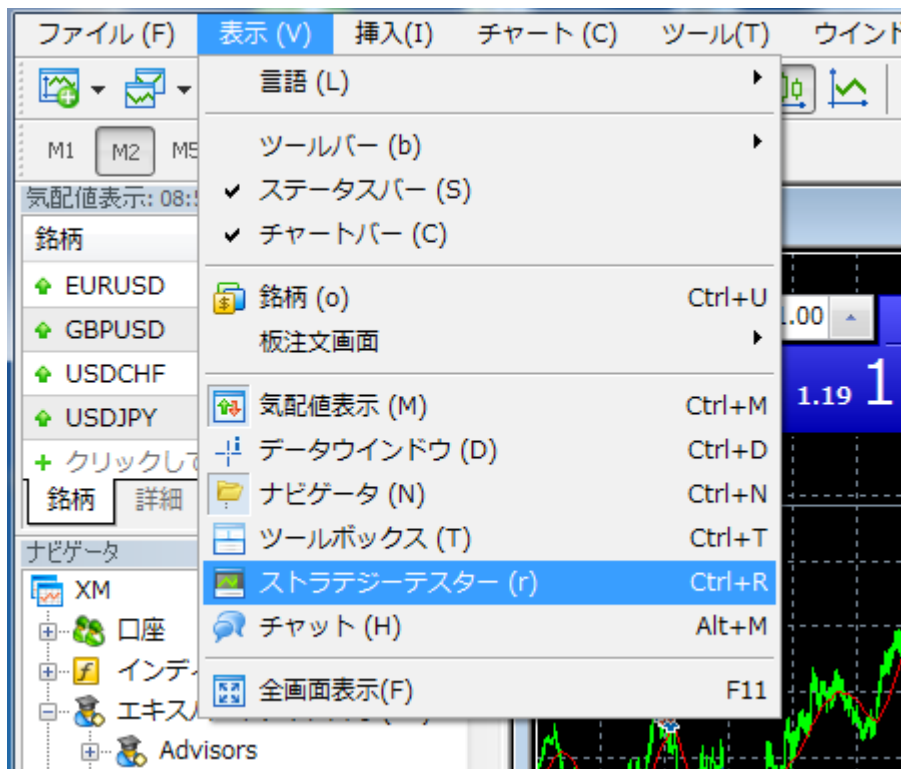


これだけで、あとはMetaTrader5 を起動させているだけでシステムが完全自動売買を行ってくれます。システムは現在表示されている時間足で動きますので、気をつけてください。システムを止めたいときは、自動売買をクリックして停止マークにすればシステムが止まります。チャートの右上のマークが停止マークになっているしますので、確認して下さい。

※自動売買システムのパラメーターをセットしてもチャートに表示されているインジケーターのパラメーターは変更になりません。インジケーターのパラメーターを変更したい場合は、チャートを右クリックして表示中のインジケーターリストを選んでください。表示されているインジケーターの一覧が表示されますので、パラメーターを変更したいインジケーターをダブルクリックして選択して、パラメーターを変更して下さい。

バックテストの仕方

バックテストの仕方です。まず、MetaTrader5 を起動させて下さい。次に、MetaTrader5 のメニューバーの「表示」から「ストラテジーテスター」を選択します。（もしくはツールボックスが表示されている場合は右下にあるストラテジーテスターを左クリックして頂ければツールボックスからストラテジーテスターに変わります）



すると、バックテストをする時に使う、ストラテジーテスターという画面が出てきます。

まずは、ストラテジーテスターの左上にあるエキスパートですが、エキスパートが自動売買のシステムになります。他にインディケータが選択出来ます。インディケータはビジュアルモードを使用時にインディケータの推移を見るなどで使用されます。

その右側のボックスで順にシステム、通貨ペア、時間足を選択します。

日付ではバックテストの期間を設定します。

全履歴、先月、昨年、期間指定があり、期間指定を選択した場合はその右側にあるボックスで期間の開始、期間の終了の日時を設定します。

フォワードテストは、バックテストの期間の中でフォワードテストを行う期間を設定します。NOはフォワードテストを行わない、1/2、1/3、1/4はそれぞれの分だけフォワードテストを行う、Customは右側にあるボックスで指定した期間からバックテスト終了期間までフォワードテストを行うになります。こちらの設定は最適化を行うときに使用するものとなりますので、最適化を行わない場合はNOで大丈夫です。

約定ですが、ここでは約定遅延の設定を行います。約定遅延ではエントリーのオーダーを出してから実際に約定されるまで時間を設定します。時間がかかればかかるほどオーダーを出してからエントリーレートがズレる可能性があります。

その右側にあるボックスでは、バックテストで使用するレートデータを選択します。全ティックが基本的には一番精度が高いですが、その分バックテストに時間がかかります。

入金バックテスト開始時の元金の設定になります。その右側のボックスで最大レバレッジの設定を行います。

その右側にあるビジュアルモードはチェックを入れてバックテストをスタートすると実際にチャートを表示しながらバックテストを行います。

オプティマイズは最適化の設定になります。パラメーターの最適化を行いたい場合はこの機能を使います。最適化を使用しない場合は無効化を選択してください。その右側のボックスでは最適化する場合に何に重きをおいて最適化をするかの設定になります。

パラメーターの設定を変更する場合は、下にあるタブからパラメータを左クリックします。

変数名	値	スタート	ステップ	ストップ	ステップ数
<input type="checkbox"/> Slippage	3	3	0.3	30.0	
<input type="checkbox"/> Lots	0.1	0.1	0.01	1.0	
<input type="checkbox"/> OpenPricesMode	true	false		true	
<input type="checkbox"/> TakeProfit	20	0	0.0	0.0	
<input type="checkbox"/> StopLoss	20	0	0.0	0.0	
<input type="checkbox"/> MA_Fast	7	7	1	70	
<input type="checkbox"/> MA_Slow	21	21	1	210	

設定 | **パラメータ** | バックテスト | グラフ | エージェント | 操作ログ | ツールボックス

チェックボックスがありますが、普通のバックテストを行う場合はチェックをつける必要がありません。こちらは最適化の設定のためのチェックボックスになります。

普通のバックテストの場合は、値の数値を設定したい数値に変更して頂くだけでパラメーターの変更が可能になります。

バックテストを行う場合は値を変更した後、タブの設定を選択し、右下にあるスタートを左クリックして頂ければ行えます。

毎回値を変更するのが大変な場合は数値の保存と読み込みを行うことも可能です。

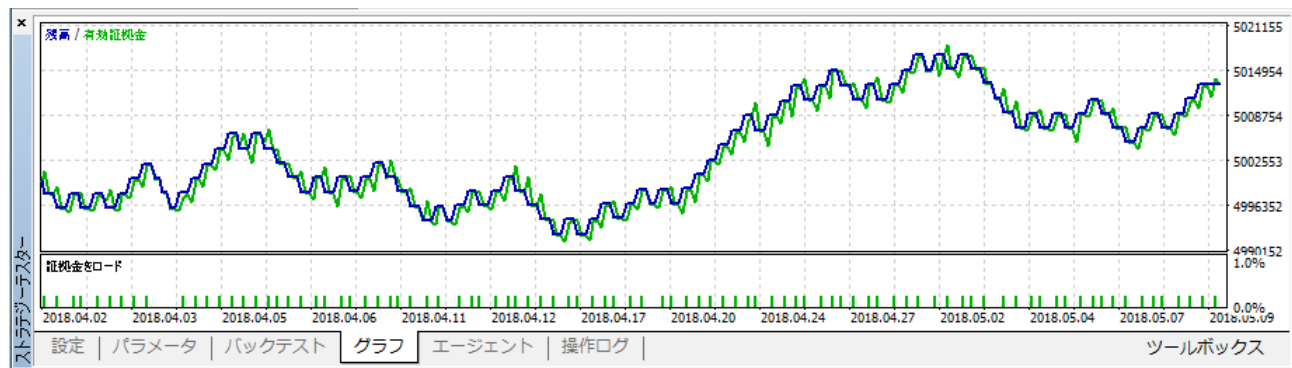
変数名	値	スタート	ステップ	ストップ	ステップ数
<input checked="" type="checkbox"/> Slippage	3	3	0.3	30.0	
<input type="checkbox"/> Lots	0.1		0.01	1.0	
<input type="checkbox"/> OpenPricesMode	true			true	
<input type="checkbox"/> TakeProfit	20		0.0	0.0	
<input type="checkbox"/> StopLoss	20		0.0	0.0	
<input type="checkbox"/> MA_Fast	7		1	70	
<input type="checkbox"/> MA_Slow	21		1	210	

設定 | **パラメータ** | バックテスト | グラフ | エージェント | 操作ログ | ツールボックス

数値を変更した後、保存を選択してセーブして頂ければ、次回から読み込みで設定した数値をロード出来るようになります。

最適化を行う場合は、最適化を行いたいパラメーターにチェックをつけます。スタートが最初のパラメーターの数値、ステップが数値を調べる幅、ストップが最後のパラメーターの数値になります。上記の画像の **Slippage** の場合は、最初が3から調べ、3.3、3.6、3.9～と30になるまで一番良い結果になる数値を調べていきます。

グラフのタブを選択すると売買による証拠金の推移を確認することができます。



次に、グラフの横にあるバックテストを左クリックしてください。ここにはシステムのバックテストのデータが出力されます。

ヒストリー品質	100%				
バー	672	ティック	2564289	銘柄	1
初期証拠金	5 000 000				
総損益	13 245	残高絶対ドローダウン	7 572	証拠金絶対ドローダウン	8 492
総利益	105 238	残高最大ドローダウン	13 841 (0.28%)	証拠金最大ドローダウン	15 691 (0.31%)
総損失	-91 993	残高相対ドローダウン	0.28% (13 841)	証拠金相対ドローダウン	0.31% (15 691)
プロフィットファクター	1.14	期待利得	133.79	証拠金維持率	45623.26%
リカバリファクター	0.84	シャープレシオ	0.07	Z-Score	0.86 (61.02%)
AHPR	1.0000 (0.00%)	LR Correlation	0.70	OnTester 結果	0
GHPR	1.0000 (0.00%)	LR Standard Error	4 972		
取引数	99	ショート (勝率 %)	0 (0.00%)	ロング (勝率 %)	99 (53.54%)
総約定	198	勝ちトレード (勝率 %)	53 (53.54%)	負けトレード (負率 %)	46 (46.46%)
	最大	勝ちトレード	2 109	負けトレード	-2 190
	平均	勝ちトレード	1 986	負けトレード	-2 000
	最大	連勝数 (金額)	6 (12 130)	連敗数 (金額)	5 (-10 131)
	最大	連勝利益額 (数)	12 130 (6)	連敗損失額 (数)	-10 131 (5)
	平均	連勝数	2	連敗数	2

設定 | パラメータ | **バックテスト** | グラフ | エージェント | 操作ログ | ツールボックス

このデータで取引回数、PF、損益、最大ドローダウンなど色々なことが分かります。

システムのプログラムの変更

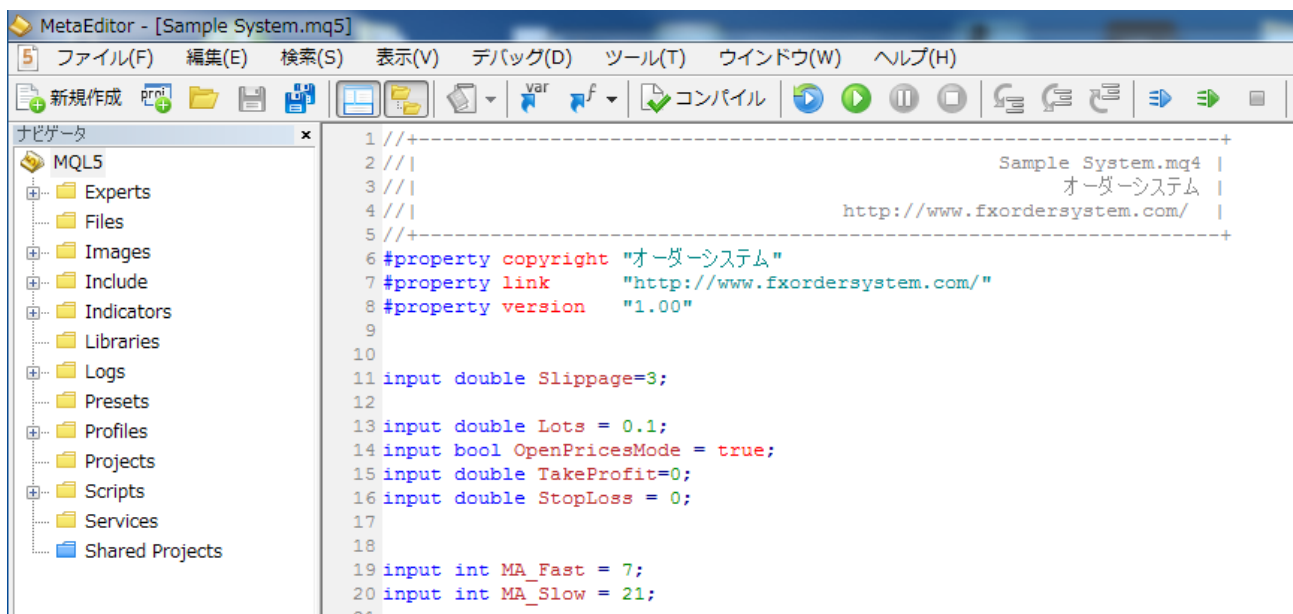
システムのプログラムの変更の仕方です。

ある程度プログラムが分かる方で、システムの内容などを変更したいときに読んでください。

プログラムを変更するとシステムが動かなくなる可能性がありますので、バックアップを取ってから実行することをお勧めします。

まず、システムの導入で自動売買のシステムと一緒にフォルダの中に入れた拡張子が.mq5 のファイルを開いてください

※以下の例は「Sample System.mq5」を使用しています。



このような画面が出てきます。

input と頭についているのがパラメーターになります。パラメーターの数値(緑の部分)を変更するとパラメーターのデフォルトを変更することが可能です。例えば Lots を 0.2 にすると Lots のデフォルトが 0.1 から 0.2 になります。数値の後の;は必ず必要ですので、消さないで下さい。

プログラムを変更したら、コンパイルします。

コンパイルというのは、プログラムの内容をパソコンが理解できるように変換することです。コンパイルしないとシステムは動きません。

上部の真ん中にあるコンパイルというボタンを左クリックしてください。

次に、エラーがないかどうか下の詳細と書かれたところを見てください。

0 error(s), 0 warning(s)

と書かれていれば、問題ありません。

システムが正常に動かない場合

※良くあるご質問

1: 売買がされません。(デモトレード、バックテストの場合)

デモトレードの場合はターミナルの操作履歴タブ、バックテストの場合はテストの操作履歴タブにエラーメッセージが表示されている場合が御座います。

OrderSend error 4756	<p>リミットまたはストップロスの値が正しく設定されていない可能性があります。最低 pips をご確認ください。</p> <p>最低 pips については、下記に詳しい説明があります。</p> <p>また、手動で確認する方法もあります。手動で決済逆指値 (S/L) と決済指値 (T/P) を入力し、その数値で指値注文が通れば最低 pips 以上の設定がされていることになります。手動でポジションを取る方法はこのマニュアルの「MetaTrader5 の使い方」で説明されています。</p> <p>決済逆指値と決済指値は、レートで設定するようになっていますので、現在のレートと決済逆指値 (S/L) または決済指値 (T/P) との差が最低 pips 以内だと指値注文が通りません。</p> <p>もしくは無効な取引量の可能性もあります。ロット数が正しいか、そのロット数で取引ができるかなどをご確認ください。</p> <p>※この作業はデモアカウントなどのテスト用アカウントで行ってください。リアルトレードなどで試された場合の損失については一切責任を負いません。</p>
cannot load custom indicator 'インジケーター名'	<p>システムに使うカスタムインディケーターが導入されていない可能性があります。導入されているかを確認する方法は、このマニュアルの「システムの導入」にある、注意の項目で説明されています。</p>

2: 売買がされません。(リアルトレードの場合)

証券会社によっては、リアル口座で自動売買システムを稼働させるのに特別な申請がいる場合があります。

デモトレードやバックテストでは稼働するが、リアルトレードでは稼働しない場合、この可能性がありますのでご確認ください。

申請が必要かどうかは、お手数ですがご利用になられている証券会社にお問い合わせ下さい。

3:表示されているカスタムインディケーターと売買のタイミングが違う。

システム内部にある、インディケーター用のパラメーターと、チャートで表示しているインディケーターのパラメーターが同じパラメーターになっているかをご確認下さい。

システム内部にある、インディケーター用のパラメーターとチャートで表示しているインディケーターのパラメーターが違くと、システムはシステム内部のパラメーターで計算しますので、ポジションを取るタイミングが変わってきます。

表示させるインディケーターとシステム内部のインディケーター用パラメーターは同じものにすれば、解消される場合があります。

※最低 pips について。

ストップロス、リミット、指値注文についてですが、各証券会社ごとに最低 Pips というものが設定されています。

大体の証券会社は数 pips となりますので、10pips＋スプレッド分あれば基本的に問題ありません。最低 Pips 未満のストップロスとリミットを付けた場合はストップロス、リミットを入れることが出来ず、指値注文の場合は注文自体がキャンセルされます。

ストップロスとリミットは証券会社指定の pips 以上か、もしくは使用しない場合は0を入力して下さい。(最低 Pips の詳しい値はお手数ですが、各証券会社にお問い合わせ下さい)